

# 宮城県公文書館年報

第 1 1 号

平成 2 3 年度



## 宮城県公文書館

Miyagi Prefectural Archives

## 目次

### I 公文書館の概要

1 設置目的	1
2 業務内容	1
3 沿革	1
4 組織	2
5 予算	2
6 施設・設備	2 ~ 4

### II 平成23年度事業の概要

1 資料の選定・収蔵	5
2 簿冊・絵図面の内容調査	5
3 閲覧台帳等の整備	6
4 書庫特別整理	6
5 保存対策	6
6 利用状況	7
7 広報普及	8
8 平成23年度特記事項	9

### III 平成24年度事業計画

9 ~ 10

## I 公文書館の概要

### 1 設置目的

宮城県公文書館は、「宮城県公文書館条例」（平成12年宮城県条例第132号）に基づいて設置された施設であり、歴史資料として重要な公文書等を保存し、県民共有の文化遺産として後世に伝えるとともに、閲覧、複写その他の利用に供することを目的とする。

### 2 業務内容

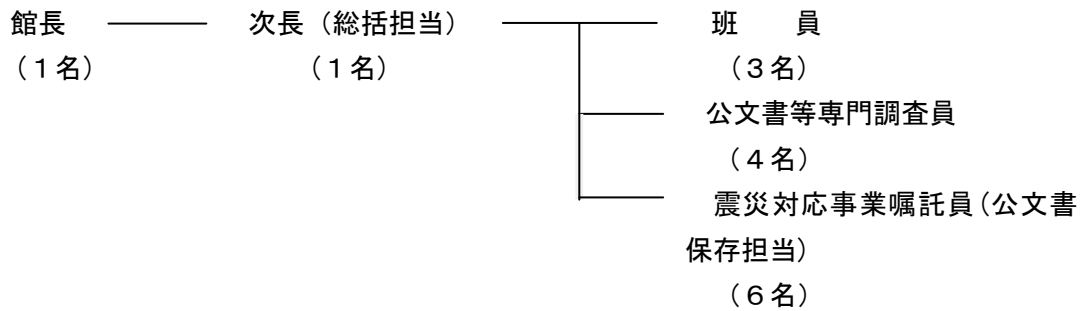
公文書館の主な業務は、次のとおりである。（宮城県公文書館条例施行規則第2条）

- (1) 歴史的価値を有する公文書その他の記録（以下「公文書等」という。）の保存に関すること。
- (2) 公文書等の閲覧その他の利用に関すること。
- (3) 公文書等の調査研究に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、公文書館の設置の目的を達成するために必要な事業。

### 3 沿革

昭和63年6月	公文書館法施行
平成元年度～	保存期間満了文書の中から歴史的・文化的価値の高い公文書の選別・収集・保存を開始
平成元年11月～2年3月	宮城県公文書館構想庁内ワーキンググループ設置
2年10月～3年3月	宮城県公文書館（仮称）建設検討委員会及び建設検討ワーキンググループ設置
3年7月～4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会を設置（有識者7名）
4年3月	宮城県公文書館（仮称）建設懇話会から知事へ公文書館建設について提言
4年10月～5年3月	宮城県総合情報センター・公文書館（仮称）建設基本構想を策定
5年4月	他施設（国際交流プラザ）との併設を検討
9年7月	新図書館建設による旧図書館利活用庁内ワーキンググループ設置
11年1月	公文書館建設基本構想（平成5年3月）を断念し、旧図書館の活用を決定
13年4月1日	宮城県公文書館条例・同条例施行規則施行
13年4月21日	宮城県公文書館開館
14年6月	第14回都道府県・政令指定都市等公文書館長会議を当館で開催（国立公文書館主催）
15年11月	第29回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会（同協議会・宮城県主催）開催
23年2月	図書館への移転に係る施設改修経費が2月議会で議決

4 組織（平成24年3月31日現在）



5 予算（平成24年度当初）

資料保存事業費	13,488千円
庁舎管理経費	18,833千円
管理事務費(緊急雇用)	16,978千円
合計	49,299千円

6 施設・設備

(1) 施設

イ 名称	宮城県公文書館	
ロ 所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地	
ハ 施設の形態	みやぎNPOプラザ・みやぎ婦人会館との複合施設	
ニ 敷地面積	4,942.78㎡	
ホ 構造	本館鉄筋コンクリート造り地下1階地上3階建て 書庫棟〃地上3階建て（5層式）	
ヘ 建築年月日	本館昭和42年11月30日建築 書庫棟昭和58年7月20日建築	
ト 建築面積	本館 1,153.39㎡	書庫棟 246.35㎡
チ 延べ床面積	5,221.80㎡（本館4,040.70㎡，書庫棟1,181.10㎡）	
リ 施設別面積	公文書館 2,148.134㎡	みやぎNPOプラザ 1,261.561㎡
	みやぎ婦人会館 479.163㎡	共用スペース 1,332.942㎡

又 公文書館専用部分内訳

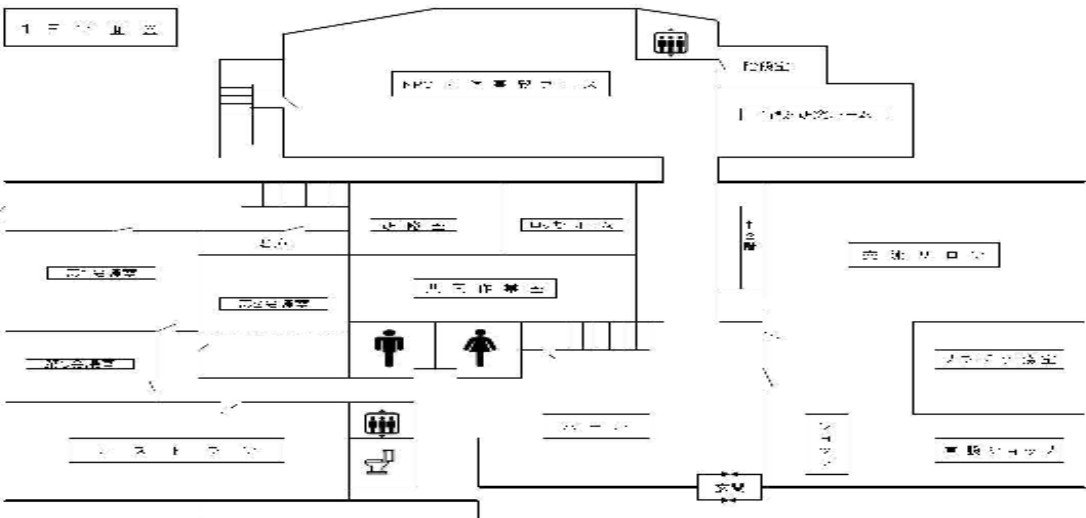
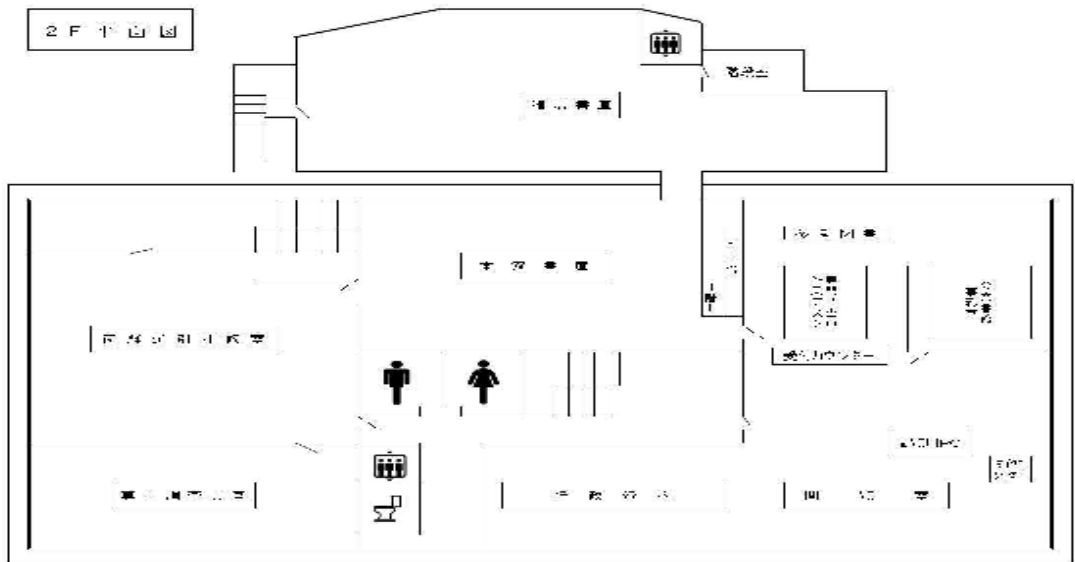
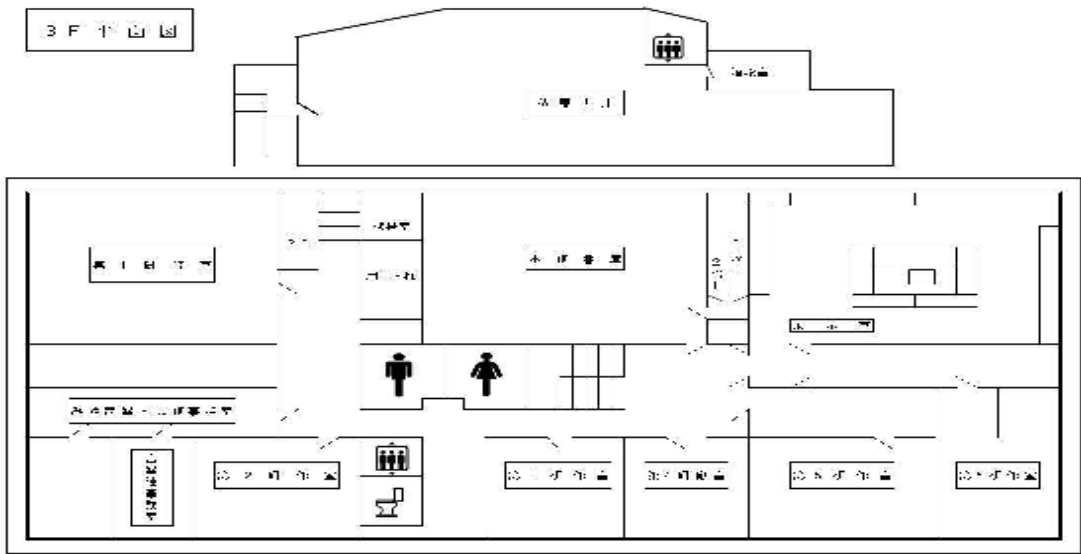
2 階		3 階		積層書庫	
室名	面積	室名	面積	室名	面積
事務室及び閲覧室	378.450㎡	展示室 書庫	151.650㎡ 212.131㎡	2 層	229.092㎡
公文書調査室	75.600㎡			3 層	234.942㎡
荷解選別補修室	175.623㎡			4 層	229.092㎡
書庫	232.462㎡			5 層	229.092㎡
計	862.135㎡	計	363.781㎡	計	922.218㎡

(2) 設備

・ 昇降機設備	2台
・ 閲覧用テーブル	9卓 (幅120×奥行き75×高さ70)
	2卓 (幅225×奥行き90×高さ75)
・ 展示ケース (固定式)	3面
・ // (移動式)	4台 (幅200×奥行き94×高さ80)
・ マイクロフィルムリーダー・プリンタ	1台
・ デジタルブックコピー	1台

(3) 大規模修繕関係

・ 耐震改修	計180,248千円
ア 平成10年度 耐震診断	4,284千円
イ 平成11年度 耐震補強・改修設計	9,870千円
ウ 平成12年度 耐震補強・改修工事	166,094千円
・ アスベスト除去工事 平成18年度	1,575千円
・ 空調設備改修工事 平成19年度	23,980千円
・ 電気設備改修工事 平成20年度	3,412千円
・ 外壁及び内壁修繕工事 平成20年度	5,833千円
・ 内部等改修工事 平成21年度	13,683千円
・ 電気設備等改修工事 平成22年度	17,773千円
・ 震災復旧工事等(本館執行分) 平成23年度	4,492千円



## II 平成23年度事業の概要

### 1 資料の選定・収蔵

保存期間の満了した公文書の中から、歴史的価値を有する公文書を選定し、収蔵した。

(H24. 3. 31現在)

区 分		平成22年度末 所 蔵 数 (a)	年 号 ・ 年 度 区 分 訂 正 (b)	平成23年度 収 蔵 数 (c)	平成23年度末 所 蔵 数 (a+b+c)	備 考
公 文 書	明治期公文書	3,671	0	0	3,671	
	大正期公文書	1,692	0	0	1,692	
	昭和期公文書	24,514	0	497	25,011	
	平成期公文書	4,442	0	268	4,710	
	計	34,319	0	765	35,084	
絵 図 面		1,565	0	0	1,565	
行政資料等		6,295	0	174	6,469	
合 計		42,179	0	939	43,118	

### 2 簿冊・絵図面の内容調査

(1) 簿冊及び絵図面のタイトル、作成年度、記載内容、公開・非公開区分、破損状況、補修要否などを調査した。  
(平成24年3月末現在)

区 分	平成22年度末 調査済数	平成23年度中 調査数	平成23年度末 調査済数	備 考
簿 冊	28,141	579	28,720	昭和55年度まで
絵 図 面	1,565	0	1,565	
合 計	29,706	579	30,285	

(2) 利用制限基準の改定(平成21年度改定)に伴う公開の可否及び利用制限期間についての再調査は、東日本大震災により落下して破損した簿冊の修復を優先したため、平成23年度は実施しなかった。

なお、再調査の平成22年度までの状況は、次のとおりである。

区 分	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書 ~昭和51年度まで	合 計
対 象 簿 冊 数	3,671	1,692	20,889	26,252
平 成 21 年 度 再 調 査 済 数	241	71	0	312
平 成 22 年 度 再 調 査 済 数	301	238	598	1,137
残	3,129	1,383	20,291	24,803

### 3 閲覧台帳等の整備

完結後30年以上経過したすべての所蔵資料名と内容調査が終了した資料の調査結果のデータについて、収蔵資料等検索システムに入力するとともに、年度別及び分類別の閲覧台帳を作成し、窓口に備え付けた。

### 4 書庫特別整理

平成24年3月1日及び2日、休館して書庫の特別整理を行い、リストに基づいて簿冊及び絵図面の配架場所や収納場所などを確認し、書棚をアルコールで清掃した。

### 5 保存対策

#### (1) 内容調査時の補修

簿冊の内容調査に合わせて、ホチキス、クリップ等金具の除去と紙縫による綴じ直し、破れている綴じ穴の和紙による裏打ち補修、セロテープ貼り写真の糊による貼り直し、写真のポケット台紙に入れ直し、及び「まくら」をはずして綴じ直すなどの補修を行った。

また、東日本大震災により落下して破損した簿冊の修復を、次のとおり行った。

(平成24年3月末現在)

修復簿冊数	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書	平成期公文書	合計
	86冊	29冊	654冊	0冊	769冊

#### (2) マイクロフィルム化・複製化状況 (H24.3.31現在)

区分		平成22年度末 収蔵数 a	平成23年度 作成数 b	平成23年度末 収蔵数 a+b	備考
マ イ ク ロ フ ィ ル ム 化	公文書	393巻	12巻	405巻	405冊分
	行政資料等	151巻	0巻	151巻	151冊分
	計	544巻	12巻	556巻	
	絵図面等	5,762コマ	0コマ	5,762コマ	1,527点分
複 製	絵図面	959枚	110枚	1,069枚	

#### (3) 資料のデジタル化

こんにやく版や湿式コピー文書等、褪色の可能性のある文書を含む簿冊一覧から台帳を作成し、デジタルカメラで撮影し、デジタルデータをHDDに保存した。

なお、平成23年度は、緊急雇用創出事業として、次のとおり行った。

(平成24年3月末現在)

実施簿冊数	明治期公文書	大正期公文書	昭和期公文書	平成期公文書	合計
	304冊	0冊	0冊	0冊	304冊



(4) 書庫のくん蒸

毒性が弱いとされる薬剤ミラクン S (ピレスロイド系フェノトリン) を使用し、平成 23 年 9 月 17 日から 19 日までの 3 日間、くん蒸を行った。

(5) 未整理資料のリスト作成

未整理の行政資料等 (2, 330 冊) を整理し、リストを作成した。  
今後、所蔵資料として登録を検討する。

6 利用状況

完結後 30 年以上経過した文書を、個人情報等に配慮しながら、閲覧や複写サービスの提供に努めた。

(1) 来館による利用状況

(平成 24 年 3 月末現在)

項目 月	閲覧室利用者数 a	資料閲覧利 用冊数	複写件数	展示室入場者 数 b ※	入館者数合 計 a+b
4 月	0	0	0	0	0
5 月	25	39	6	0	25
6 月	46	165	17	0	46
7 月	63	136	15	0	65
8 月	85	297	33	0	85
9 月	89	416	43	0	89
10 月	68	340	34	0	68
11 月	66	407	41	0	66
12 月	37	112	18	0	37
1 月	37	424	22	0	37
2 月	39	344	21	0	39
3 月	60	303	31	0	60
合 計	615	2,983	281	0	615
1 日あたりの平均 (稼働日数 215 日)	2.86	13.87	1.31	0	2.86

※ 東日本大震災により、平成 23 年 3 月 12 日から平成 23 年 5 月 15 日まで休館した。  
また、展示室も空調設備が落下するなどして使用ができなくなり、常設展等は休止した。

(2) その他の利用状況

出版物等掲載許可	レファレンス件数		
	メール	メール以外	計
13	58	26	84



検索用パソコン



閲覧室

## 7 広報普及

歴史資料として重要な公文書等を保存し後世に伝えていくことの必要性等について、県民の理解を得るため、企画展・常設展を開催するとともに、「公文書館だより」や「年報」をホームページに掲載した。

### (1) 展示

区分	テーマ	場所	期間	入館者数
移動展	温泉にみる宮城のあゆみ	県庁18階 広報展示室	平成23年8月29日 ～9月22日	1,152人

#### 【移動展概要】

##### 「温泉にみる宮城のあゆみ」

温泉は宮城県の大切な観光資源であり、古くから人々に親しまれてきた。さらに、温泉は、明治時代の富国強兵・殖産興業政策、大正時代の鉄道・軌道の敷設と電気の普及、昭和時代（戦中）の学童疎開など、宮城の歴史と深くかかわっていた。

この資料展では、宮城県を代表する観光資源の温泉、なかでも鳴子温泉とその周辺地域をとおして、県がこれまであゆんできた明治・大正・昭和の歴史を振り返り、宮城の温泉と歴史を当時の貴重な公文書や写真等で紹介した。

### (2) 広報誌の発行

次のとおり、ホームページに掲載した。

#### ①「宮城県公文書館だより」

第18号 平成23年4月28日発行

第19号 平成23年12月19日発行

第20号 平成24年3月30日発行

#### ②「宮城県公文書館年報」

第10号（平成22年度） 平成23年5月27日発行

## 8 平成23年度特記事項

### (1) 東日本大震災対応

東日本大震災（平成23年3月11日）により、当館も甚大な被害を受けた。建物に亀裂が入り、壁やタイルの一部が落下し、余震（平成23年4月7日）によるものと合わせて、133枚の窓ガラスが破損した。書架はつなぎが切れたり、多数に歪みが生じた。緊急に必要な補修工事には、4,492千円を要した。



所蔵資料は、42,000冊余のうち、約7割が書架から落下し、破損したのも数多くあった。原状回復配架作業のため、平成23年3月12日から休館した。作業が終わろうとした矢先に余震があったため、作業は振り出しに戻り、平成23年5月15日まで休館した。

展示室も空調設備が落下するなどして復旧工事が終了するまで使用ができなくなり、常設展等は休止した。

建物に係る復旧工事は、平成24年度中に行われる。

なお、被災者を対象とした緊急雇用創出事業により震災対応事業嘱託員（公文書保存担当）が配置され、歴文のデジタル化事業等に従事した。

### (2) 公文書館移転事業への対応

収蔵能力を確保し、資料の適確な保存管理を行い、図書館利用者を含めてより多くの方に御利用いただくことを期待し、宮城県図書館の施設を改修して公文書館を移転することとなった。

改修案の作成に当たっては、館史上重要事案として取り組み、平成23年8月11日、改修素案を主管する県政情報公開室に示した。設計業者と調整を重ね、設計には館の意向が十分に反映された。改修工事は平成24年3月8日に落札され、平成24年度中に工事が行われる。

## Ⅲ 平成24年度事業計画

### 1 資料の選定・収蔵

保存期間が満了した公文書の中から、歴史的・文化的価値のある公文書を選定して、収蔵する。

### 2 所蔵資料の実態把握

レファレンス業務や閲覧申請等への対応がより迅速にできるよう、所蔵資料の収蔵状況及び保存状況を適確に把握する。また、定期的な特別整理を実施する。

### 3 簿冊・絵図面の内容調査及び簿冊の再調査

簿冊及び絵図面のタイトル，作成年度，記載内容，公開・非公開区分，破損状況，補修要否などを調査する。また利用制限基準の改定に伴い，明治元年～昭和51年度までのすべての簿冊について，新基準に基づき，公開の可否，利用制限期間を再調査する。

### 4 閲覧台帳等の整備

簿冊の内容調査結果等に基づき，閲覧台帳及び収蔵資料等検索システムのデータ等を整備する。

### 5 保存対策

- (1) 内容調査時の補修
- (2) 公文書のマイクロフィルム化
- (3) 絵図面のカラー複製化
- (4) 資料のデジタル化
- (5) 書庫のくん蒸
- (6) 書庫特別整理

### 6 広報普及

広報誌の発行については，「公文書館だより」及び「公文書館年報」を作成し，ホームページに掲載する。

なお，例年，企画展，常設展及び移動展を計画しているが，展示室は震災被害（復旧工事完了は9月末予定）により使用ができない。また，24年度後半は移転作業があり，前半は業務が集中するため，年間を通して展示会の開催は困難であり，24年度は休止とする。24年度は，これまでの展示会資料を整理するとともに，図書館への移転後の平成25年度において展示会等の広報活動に速やかに着手できるよう準備を進める。

### 7 震災と公文書保存対応

公文書館としての役割を積極的に果たすため，被災した公文書への対応の在り方について，関係機関と協議する。

### 8 図書館への移転

公文書館移転のための図書館改修工事が平成24年4月から10月末にかけて行われ，竣工後，図書館へ移転する予定である。

移転及び移転後の公文書館の運営が円滑に行われるよう，関係機関，公文書館移転連絡調整会議等において連絡を密にしながら進める。